

# 歴史教科書を考える

第1号

2007.5.25 日本考古学協会歴史教科書問題検討小委員会

## 1. 歴史教科書問題検討小委員会について

平成10年の学習指導要領改定にともない、小学校の歴史教科書が弥生時代から始まることになりました。「ゆとり教育」が謳われる昨今の趨勢の下、授業数・授業内容が大幅に削減されているとはいえ、旧石器・縄文時代を削除し、日本列島における人類史を農耕社会から始めるということは、子供達の歴史認識を不十分なものとし、わが国の歴史教育として不適切なあり方であるといわざるをえません。

わが国の歴史教育において、考古学の研究成果が適切に取り扱われるよう働きかけることも日本考古学協会の責務であるという認識から、昨年4月に「歴史教科書問題検討小委員会」が設置されました。

本委員会は、教科書を中心に、総合学習（体験学習）・副読本も含めて、①現況の歴史教育の実態を検証し、より適切な内容となるよう提言する、②古代はもとより中・近世以降においても、歴史教育の素材として考古学の研究成果が有効であることを提示し提言する、の2点をめざしています。

わが国の将来を担う子供達に、よりよい形で考古学の成果を伝えていくために、多くの協会員がこの問題に関心をもち、積極的に議論に参加してくださることを願っています。

## 2. アンケート結果より

昨年の日本考古学協会愛媛大会において、本小委員会は小学校の歴史教科書に関するポスターセッションをおこない、その場でアンケート調査をおこないました。多くの方から、小学校の教科書に旧石器・縄文時代の記述のないことに驚きの声が寄せられました。以下、アンケートのご意見、感想の一部を紹介します。

### 《2. 現行の小学校学習指導要領、小学校第6学年の社会科教科書、およびポスターセッションに対する意見・感想》

○指導要領の「国を愛する心」の表現には違和感あり。自分を実感し愛することができずリストカットなどの行動をとる子どもたちが多いのが実情である。文化

財を通して「愛する」ということはなにか、実感させることが急務と思う。教科書については発達段階の即して良くできていると思う。（協会員 教員 40代）

○露骨に「国家形成」のみを取り上げているように感

じました。現在の政府の思惑が反映されているように思われます。（非協会員 大学院生 20代）

○殆ど同じような内容になっているのは指導要領と検定のせいだと思っていました。（協会員 教員 60代）

○こうした実情を学校現場にアピールすることが必要だと思います。（非協会員 文化財保護関係 40代）

○子供たちが気をひく工夫が増えているが内容、教科書の薄さには驚きました。（協会員 教員 40代）

○中学校の社会科教科書から世界史の記述も殆ど削除されました。こうした問題を考古学として絡めるのも結構ですが、他の学会等との連携も図るべきではないでしょうか。（協会員 教員 50代）

○現在の教科書が弥生時代から始まっていることを全く知らなかったので驚きました。研究者の間では縄文から弥生の文化的連鎖性が常識になっているのに、不自然さを強く感じました。また、戦前の「稲穂の国日本」的考え方に戻っていくようで危惧を感じます。（協会員 教員 30代）

## 《3. 学校教育現場・博物館等における学習指導要領、および社会科教科書改訂の影響》

○調べ学習などが多くなったのは悪いことではないと思う。（協会員 教員 40代）

○小学生だけでなく教員も興味を持たなくなる。（非協会員 文化財保護関係職員 40代）

○改訂後数年という段階で流れを理解している先生方も多くいると思われるが、10年、20年後が怖い。（協会員 博物館関係 50代）

○基礎の基礎的導入なくて博物館では学習できない大きな影響があると思う。（協会員 無職 40代）

○遺跡を大事にする心が育たない。モアイ像等で世界遺産を傷つけた日本人旅行者の話に以前心を痛めたが、これからはもっとひどいことになりかねない。都市成

立後の歴史のみを重視することは地方輕視、無文字文化輕視に繋がり、國際感覚を育てる上で望ましくない。  
(協会員 教員 40代)

○教員は教科書で教えていますので、創意工夫で切り抜けていると思いますが、こうした教育を受けた子供が教員になった時が大変です。高校で非常に右傾化した生徒が増えています。これも影響でしょうか。(協会員 教員 50代)

○大学で、歴史・考古学専攻ではない学生(いくつかの学部がミックス)のクラスを教えていますが、稻作以前に日本で食べられていたものについて知識が殆どゼロ("木の実"などの答えもない)だったので少しひっくりしました。(協会員 教員 30代)

《4. 学校教育における考古学的成果の活用について》  
○文化財の担当者は児童・生徒の発達段階について勉強して頂き、興味・関心を高めるような方向へ導いてほしい。(協会員 教員 40代)

○社会科の授業だけでなく、都道府県の教育委員会や博物館が出前・出張事業をすることを提案します。(協会員 教員 60代)

○文化財保護行政の現場では小学生に生の遺物に触れる学習等を行っているが、その時に縄文時代はもっとも効果が高い。環境問題や生命の尊厳等にも広げられる分野である。(非協会員 文化財関係 40代)

○自国の歴史・人類の歴史の学習が未来を開く。古くて新しい命題を認識すべき。(協会員 無職 40代)

○8月に大阪大学で高校日本史・世界史の教員研修会が開かれましたが、考古学の部門はありませんでした。教員にたいして、考古学的成果の授業への活用などの研修会を各地で開くべきでは?(協会員 教員 50代)

《5. 社会科教科書問題小委員会の活動に対する提言》  
○センター試験や大学入試の改革にも取り組んでほしい。単位未修得問題は、永年にわたる根深い問題の現れであると思う。(協会員 教員 40代)

○近現代における歴史認識を深めるために戦争遺跡を取り上げることは大事ではないでしょうか? (非協会員 大学院生 20代)

○海外での事例も知りたい。シンポジウムを開くのは有意義では? (協会員 教員 40代)

○もっと学校現場の教員の声を聞いてほしい。(協会員 教員 50代)

○まず、研究者で教科書の実情を知らない人が殆どな

ので、より効果的な広報、また意見交換の場の提供(協会の一部としてシンポジウムをするなど)を推進していただいたらと思います。(協会員 教員 30代)

### 3. 投稿 歴史教科書問題を考える

近年では、埋蔵文化財センターの有効利用と歴史教育の充実ということで、学校の授業に関わることが多くなってきています。その中で、教科書の改訂が与えた影響は計り知れないものとなっています。

教科書が改訂されてから、数年が経ち、弥生時代から教えることが定着しつつあります。しかしながら、教育現場としては、「弥生時代の農耕の始まりを子供たちに理解させるには、縄文時代を取り扱うことは不可欠」との認識で一致しています。しかしながら、我々との打ち合わせにおいて、指導要領にない時代について、表だってやりづらい面も持ち合わせているように感じられます。

今回、歴史の事業を始めて受ける6年生を対象に、学校側の許可を得て、旧石器時代から弥生時代への流れを、実物を子供たちに見せながら授業を実施しました。その結果、事前に聞いていたことではありますが、縄文時代の人気の高さには驚かされました。旧石器から弥生時代への流れを追うことで、より理解を深められると共に、農耕民族や遊牧民など、歴史上、様々な民族がいることを知っていることは必要と考えて実施したことではありますが、効果はあったかと思います。

しかしながら、縄文時代の知識については、クラスの約8割が知っていると答えるものの、その始まりの年代となると、3割程度、学校によっては1割程度となってしまっています。さらに、縄文時代より前の時代については、答えられるのは1割弱と、極端に知識から抜け落ち始めています。農耕の始まりを理解させるために学校側の努力で、縄文時代については何とか触れられてはいるものの、内容としてばさわり程度であり、旧石器については、実施に取り上げられていないのが現状のようです。

それぞれの民族が歩んできた歴史を正しく理解することが、周辺国との相互の交流において不可欠であり、僵った時代からの教育は、今後の未来ある子供たちへの弊害といわざるをえません。このままでは、実物をみて目を輝やかせる子供たちの目が曇りかねないと憂慮するものであります。(協会員 富山直人 兵庫県)

# 小学校の歴史教科書から消えた旧石器時代・縄文時代 —「歴史を途中から教える不自然さ」への日本考古学会の提言

中間有限責任法人日本考古学会 社会科教科書問題検討小委員会

現在、小学校第六学年の歴史教科書の記述は「弥生時代」から始まるのが一般的で、それ以前の「旧石器時代・

「縄文時代」には全く触れていない教科書もある。この両時代は特に考古学的成果に基づく分野で、日本考古学協会では看過できない問題と考える。

二〇〇五年春に行われた第七回考古学協会総会で、小学校の教育現場に所属する考古学協会会員からこの現状についての問題が指摘された。これを受けて日本考古学協会では、考古学の研究成果が適切に教科書に取り扱われるよう働きかけることも本学会の責務と認識し、二〇〇六年四月に「社会科教科書問題検討小委員会」を設置した。

わが国で現在使用されている小学校の歴史教科書、および一九八九年・一九九八年に大きく方針が改訂された「小学校学習指導要領」の検討を重ねてきた。こうした過程を経て、二〇〇六年一月に「学習指導要領の改訂に対する声明文」を文部科学省および中央教育審議会に提出したところである。

小学校学習指導要領の改訂と歴史教科書

容か、具体的な項目を挙げている。教科書はこれに基づき作成されたもので一般である。

一九九八年の指導要領では、小学校第六学年の社会科の指導目標、および、その内容と取り扱い方について「指導内容の厳選を図る観点から、歴史上の代表的な事象にとどめて学習するよう

に歴史を学ぶ年であり、その入門書とも言える歴史教科書において、旧石器時代・縄文時代という日本列島における人類史のはじまりが削除され、その歴史を途中から教えるという不自然な教育は、歴史を系統的・総合的に学ぶことを妨げ、子ども達の歴史認識を不十分なものにするおそれがある。

考古学の成果から復元されてきた旧石器時代・縄文時代の歴史は、世界やアジアのなかにおける日本列島の地域性、そして、南北に連なる列島内部において、複雑で多様な自然環境のなかで育まれてきた極めて特徴的な地域文化と言え、列島文化の基底をなすものである。弥生時代になつて種をまき耕すという農耕を始めたことの意味を正しく理解するためには、先行する長い

3

が多い。児童はこれら施設や発掘現場で学習し、旧石器時代の石器や縄文時

代の住居、土器、石器に出会うことも

しばしばある。児童はこうした出会いに感動を覚え、社会科やふるさとの歴史に親しみをもつて興味の輪を広げていくに違いない。しかし、こうした身

近な考古学との出会いやそこから生ま

れた興味の輪も、いざ歴史を学習する

段においては、教科書に旧石器時代や

縄文時代の記述がないのである。発掘

調査等の学術研究の成果や博物館や遺

跡公園等の生涯学習の現場と、学校教

育の基本となる教科書に記述がないと

いう学校教育現場の不整合性は、児童

の好奇心を減じさせ、学習発展能力を

阻害させるばかりでなく、歴史学習へ

の混乱をまねき、歴史嫌いの児童を生

みかねない。

また、自然の恵みのなかで自然と共に

存あるいは立ち向かい育まれた旧

石器時代・縄文時代の文化を学習する

ことは、わたしたちの先祖の自然と

人々の暮らしの関わり方を学ぶことで

あり、環境教育への关心という発展学

習の側面も持ち意義ある学習教材にも

現行の教科書には、こうした取り扱

### 学習指導要領の改訂に対する声明

1989年以来の学習指導要領の改訂にともない、小学校第6学年の歴史学習は「指導内容の厳選を図る観点から、歴史上の代表的な事象にとどめて学習するようにし、網羅的な学習にならないようにした。」に従い、「農耕の始まり、古墳について調べ、大和朝廷による国土の統一の様子が分かること」と、その内容を弥生時代から取り扱うことに入れられた。この改訂によって、現行の教科書の本文から旧石器・縄文時代の記述が削除されたが、日本列島における人類史のはじまりを削除し、その歴史を途中から教えるという不自然な教育は、歴史を系統的・総合的に学ぶことを妨げ、子ども達の歴史認識を不十分なものにするおそれがある。

考古学は、祖先の生きた証となる物質資料をもとに歴史を復元する学問である。列島全域に普遍的に存在する考古資料は、文字などの記録では知ることのできない人々の生活や地域の豊かな歴史と文化をいきいきと物語るものであり、その成り立ちを理解するうえで欠くことのできない貴重な資料である。また、掘り出された遺跡・遺物に触れる感動は、子ども達に自国の歴史や各地域の身近なふるさとの歴史を学ぶという知的好奇心を刺激し、祖先に対する畏敬の念や生きる力と知恵、そして、生命の尊厳等を学ぶ教材として重要な意味を持っている。

現行の歴史教科書から内容が削除された旧石器・縄文時代の歴史は、世界やアジアのなかにおける日本列島の地域性と、南北に連なる列島内部において複雑で多様な自然環境とその恵みのなかで育まれた極めて特徴的な地域文化を生み出したのである。それは、列島文化の基底をなすものもあり、弥生時代に農耕を始めたことの意味を正しく理解するためには、この先行する原始時代における社会のしくみや生活の様子を明らかにしておく必要がある。また、日本列島は、一律に稻作社会へと移り変わったわけではない。“稻作から国土の統一へ”で始まる歴史教科書は、本州の弥生文化とは異なり、稻作が行われずに、それぞれ「縄文文化」と「後期貝塚文化」と呼ばれる独自の文化を発展させた東北北部から北海道、そして、沖縄を含む南西諸島地域の歴史を無視したものであることも危惧される。

日本考古学協会は、歴史教育に考古学の成果が適切に活用されるよう望むとともに、次回の学習指導要領改訂にむけて、文部科学省と関連審議会に対し、小学校第6学年の歴史学習の内容に旧石器・縄文時代を取り扱うように改め、教科書の本文中に両時代の記述を復活させることを強く求めるものである。

以上、日本考古学協会は2006年度大会の場において、ここに声明する。

2006年11月3日

有限責任中間法人 日本考古学協会

現行の歴史教科書は、文部科学省制定の「学習指導要領」に基づいて編纂されている。近年では「一九八九年、一九九八年にこの学習指導要領が改訂され、「ゆとり教育促進」として各教科の授業時間が削減され、小学校第六学年の歴史学習の授業時間数は一〇五時間となり、指導要領には、その時間数の中で取り扱うべき内

いの削減を補うものとして、博物館の利用や郷土の資料調査などが学び方の参考として紹介している。また、教育現場で「総合的な学習の時間」のなかでこれらを実践する試みや旧石器・縄文時代の事項についても、一部、トピックス的に紹介する事例が見られるが、それらは、所謂「発展的な学習内容」として学習指導要領に示されていない

ことはできないものと言える。また、社会科は身近なところから社会全体へ関心を広げていくという発展的な学習が展開される教科である。近年、文化財保護の観点からいたるとこで発掘調査がおこなわれておらず児童も発掘調査で学習する機会も多い。また、それらの成果は資料館や博物館、遺跡公園等で展示公開されていること

さらに、多様な地域文化を背景として、日本列島は一律に稻作社会へと変わっていったわけではない。本州の弥生文化とは異なり、東北北部から北海道の一帯では「統縄文化」が、そして、沖縄を含む南西諸島地域では「後期貝塚文化」と呼ばれる文化が、それ自身から独自の発展を遂げている。「稻作から国土の統一へ」で始まる歴史教科書、すなわちそれら地域のある歴史を無視した教科書を見て、児童はどう思うであろうか。

### 社会科教科書問題検討小委員会の活動

考古学は祖先の生きた証となる物質資料をもとに歴史を復元する学問である。考古資料は、文字等の記録では知り得ない人々の生活や地域の豊かな歴史と文化やその成り立ちを理解するうえで欠くことができない。また、掘り出された資料から得られる感動は、児童に自国の歴史や身近なふるさとの歴史を学ぶ好奇心を刺激し、祖先への畏敬の念や生きる力と知恵などを学ぶ教材として重要な意味を持つ。

わが国の将来を担う児童に、適切な形での考古学の成果を伝えていくため、考古学会の研究や活動を振り返るとともに、他の学会や教育関係者とさらなる共同・連携を重ね、歴史教育における考古学の役割を学会として議論を重ねていく必要があると考える。

# 旧石器・縄文なぜ消えた

小学校の社会科教科書

学会として復活要望

西谷 正



九州大名誉教授  
(東アジア考古学)

にした。ただし、38年、大阪生まれ。京都大学院修了。日本考古学会会員。伊都國歴史博物館長。著書に「縄文考古遺傳」、「縄文と『新半島考古学論叢』」など。



日本の歴史の記述が米作りから始まる、小学校6年生の社会科教科書

現在、小学校で使われている教科書を見ると、6年生になつて初めて学ぶ日本の歴史は突然、米作りが始まった弥生時代から説き始められる。これは、平成10年(88年)12月に、当時の文部省が小学校教科書指導要領の改訂を行つたことにより、平成14年度(02年度)から新しい教育課程の基準が実施されるようになつたといふが如じである。

いきなり「農耕」「古墳」

高齢者にはよれば、兎も角も歴史の歴史の学習にあたつては、「我が国の歴史や伝統を大切に」と「国を愛する心情を育てるようとする」といふことを目標にしている。そして、「我が国の歴史上の主な事をついて、人物の働きや代表的な文化遺産を中心」すれど、歴史を学ぶ意味を考えざるものだ。我が国が国歴史や先人の働きについて理解と関心を深めねばなりません」といふことを内容としている。

それを裏付けて、内容を厳選する観点から、日本の歴史を「農耕の始まり」と「古墳」という二つの歴史的事象を取り上げ、

また、神話・伝説調べる」ことで國の形成に関する考え方などに关心を持たせるように指導する。

そして、小学校6年生の日本

歴史の学習は、農業を基盤とする社会を、その後の「歴史の進展に大きな影響を与えた」弥生時代から始まることになった。その結果、弥生時代に先立つ旧石器・縄文時代のことが取り扱わなくなつたわけである。

しかしながら、日本列島の歴史がほんか数万年前の旧石器時代からさかのぼるところは、戦後の考古学調査・研究の大きな成果として定着している。国内の博物館では旧石器時代の文化から

世界文化遺産候補にのぼつて、多くの青森県・三内丸山遺跡や、直径100mを超す千葉市・加賀利良遺跡に代表される環状貝塚群、さらには櫛田遺跡・上野原遺跡など多くの遺跡が日本列島には存在する。まだ、これらの多くは史跡公園として整備され、子供たちは身近な所で豊かな縄文文化に触れる学習が可能になつてゐる。

独自性・地域性示す文化

日本列島の旧石器・縄文時代の文化は、世界の中での独自性と、南北に長い列島各地における複雑な地域性を示している。そのことを学ぶことによって初めて、「農耕の始まり」の歴史的背景についても理解や関心を深めることができます。

ついで、1万2千年前ほど前に、旧石器時代に引き継いで縄文時代が成立する。列島初現の縄文土器は、世界の土器の中で最も古い位置づけられ、また、自然との共生によって花開いた列島独自の「縄文力」は国

内外で注目されてきたといふのである。

これまでの文化圏に申請された世界文化遺産候補にのぼつて、このような学術研究の成果を、学校教育・生徒学習の現場における実態に照らすと、旧石器・縄文時代の記述が削除されない現状は是正されねばならない。日本列島の人々が持つ始めた旧石器・縄文時代を経て、その歴史の中から弥生時代が始まるという体系的な学習」が、子供たたに正しい歴史認識をさせ、ひいては改正教育基本法に觸れる「我が国と郷土を愛する態度を養う」ことだ

文化が復興してこだいと見通

じしてはならない。

また、日本列島全般で一挙に農耕が始まったのでもない。九州や本州などで水稻栽培が始まつたあと、北海道では縄文文化、そして沖縄をはじめとする南西諸島では後期貝塚文化

文化學問

小学校教科書 消えた旧石器・縄文時代

The headline reads: 小学校教科書 消えた旧石器・縄文時代 (Disappeared Jomon Culture). The main article discusses the disappearance of ancient stone tools and绳文 (Jomon) culture artifacts, mentioning the Japanese government's efforts to protect them. A sidebar on the right discusses the start of agricultural cultivation and its relationship to ancient agriculture.

## 神話取り上げさせ 考古学を締め出す

お前らが来た頃はまだ幼い子  
じみたがるの子供が多かった  
が、新大卒生が現れた子も  
わざわざ見に来られた。新卒  
がからんとおしゃべりが社会  
が教科書を開いてみて下さ  
こ。するとこれが日本の歴史  
を初めて学ぶ教科書が「田  
石編・鎌文武天皇の御代を以て  
なくて、源氏が來ていつるが始  
まった新歴代が書かれて居ま  
れていたらしいが、誰が書  
いたのか知らない。誰が書  
いたのか知らない。

日本列島がどの程度、國文時代があったか、その範囲は、然るべき事実のたゞ、それが小学校の教科書編纂から、なぜ、西洋から来たのか、先秦の教科書五日、而してしまったのか。その原因がある「教育」をスタートさせた。

しのものである。黙々とや  
黙々とやるのでは済まないな  
といふのだが、あるまい。当  
然、小学校の社会科教科書が  
心回り時代と讀文時代の記  
述が混在してしまったこと  
が原因である。

萬葉集卷之三

本年六月に着手した「新規開拓のための研究会」は、本年八月に終了する。この間、主として、新規開拓のための「新規開拓のための研究会」は、本年八月に終了する。

天皇を中心の  
立場を高く評価  
た。

2007年(平成19年)3月13日(火曜日)

子どもたちが、最初に歴史の勉強を始めるのが小学校六年生の社会科の授業である。しかし、現在使われている教科書では、日本列島の歴史が弥生時代の米づくりから紹介されるようにになっており、それ以前の、三万年を超える日本列島の歴史が、塵土を飛ばしてしまった。文からほどんど消えてしまっている。

## 旧石器遺跡が語るもの。

ついで、地元はもじりか、金剛の子どもたちの誰かが知るといふと、高野山の御嶽のナウマン象や和田跡の鹿塚石、そして、みどり市の岩宿跡の発見について、小学校の教科書で知る機会はほとんど無くなってしまったのである。

現在、使われている教科

書は、新しい指導要領に基づき、1100六年から学校も旧石器・縄文時代の記述が消えてしまったのである。その新しい教科書なり旧石器・縄文時代の記述が消えたことを知る人は、意外に少ない。大人が、子どもたちの使っている教科書をじっくり見ることに対する不思議な反応を尋ねる人も多い。旧石器・縄文時代の

祖先の歴史を、その途中から見ることは、多くの子どもたちが、いざなうことに対する不思議な反応を尋ねる人も多い。旧石器・縄文時代の歴史を学ぶ教科書から、祖先の生き様は、命の尊厳、生きる力、そして自然といふ感じを、その歴史となる岩宿跡を通じてお伝え

幸恵

(日本考古学会・大竹

## 「岩宿」通じ 夢はぐくむ

は、必ず、まれなことであるが、一般的の父母に限らず、南北に遡なる日本列島の複雑多様な自然環境とその出来事としてどうぞ生きるきりの実感を知らなかつたといふ声もよく聞く。

前・中期旧石器遺跡、くんできたことを伝えるも

事件、通じ、「じつした地図などの

研究成果さえも歴史の話題

から遠ざかれてついて、太田市飯塚町の同市学習文化センターで開かれる。講

座を前に、中心テーマとなる本県の岩宿遺跡などに

ついて講演者らに執筆してもらった。

日本考古学協会の第2回公開講座「考古学から見えてきたふるさとの歴史」が18日午後1時から、太田市飯塚町の同市学習文化センターで開かれる。講座を前に、中心テーマとなる本県の岩宿遺跡などについて講演者らに執筆してもらった。

列島全域に普遍的に存在する遺跡の調査・研究から、さとの歴史を身近に感じることのできた私たちのみ、地域の歴史を通して子

を育てるものであつて、教科書に書かれた歴史を最近まで現れが自然環境とその草木を抜け、地域の特徴を生かした文化の伝統をぐつてきただとも、うつづかれてきたとおもふ。十八日に開催する公開講座「考古学者から見えてきたふるさとの歴史」は、ふるさとの歴史には、いつも

座「考古学者から見えてきたふるさとの歴史」は、ふるさとの歴史には、いつも

7

代文部省が定めた比率100%。年度かい一九六八年の学年総算結果では、「東京校場五日目」の下で「全学」校場五日目が「全学」校場五日目へした結果、教育がベターワードだんだ。  
結果をうけて教育生徒化していった田舎時代から、近づいて十数年間の教育政策は断ち切つてこれまでの教育政策へ、ついに米国風の教育政策へと進みはれねや。なぜ、小学生の教育政策が米国風ではないのか。普通は、教育政策がどうの議論がなった学習指導標においていた。

## 小学校の社会科教科書

日本が歩むべき道は、たゞ一つである。それは、國民の精神を奮起させ、國民の力で國を守る道である。これが、國の命である。國の命を守るために、國民の力を發揮するには、國民の心を鼓舞する事である。これが、國の命を守るために、國民の力を發揮する事である。これが、國の命を守るために、國民の力を發揮する事である。



日本の歴史教育は弥生時代の米作りから始まる

木の六本柱は細い柱の大  
棟高が低いため西端  
部は外側に傾いて立つ。  
左の端は、新潟市。右の  
端は、小学校は総合的な学習  
の国際な特徴を持つ、日  
本屈指の建築といふ。

日本旧石器学会の福田重吉  
会員（岡山大教授）は「日本古  
列島の人間生息はいつ始まり  
たのか、記録を追ひんとする  
などと日本の歴史修正して想  
解でない。列島の旧石器文  
化には日本人十倍の種族文化  
など埋蔵した例のないものがあ  
つて異様」。（歴史上の人物  
を惑口にするだけでなく、物  
や自然が人間との関係を無視  
して歴史を学んでいく必修が

**授業時間削減者**

考古学協会改善求める

る現状の改善を求めるに留まつたが、文部省への請願書提出

大連港を主な輸出港が、これが原因で、この時代は「大連港時代」と呼ばれる。この時代は、日本による大連開港の影響で、大連港は急速に発展した。一方で、大連港の開港によって、他の港も競争する形で発展した。この時代は、大連港時代と呼ばれる。この時代は、大連港の開港によって、他の港も競争する形で発展した。

日本文化を理解する文化背景や歴史文化背景がなかった。まるで日本文化の土壌がない中学生になりて初めて國文以降を学んである。かくして國文以降は教科書から離れてしまったのか。じつは歴史教育の現状が原因である。

## ゆとり教育で か部分

## 消えた旧石器、縄文時代

授業時間削減

大連港を主な輸出港が、これが原因で、この時代は「大連港時代」と呼ばれる。この時代は、大連港を主な輸出港として、多くの輸出商品が積み出された。また、大連港を主な輸入港として、多くの輸入商品が積み込まれた。この時代は、大連港を主な輸出港として、多くの輸出商品が積み出された。また、大連港を主な輸入港として、多くの輸入商品が積み込まれた。